

高知県の森林環境保全に TABWD[®]が貢献

トヨタ車体株式会社（愛知県刈谷市、代表取締役・社長：松尾 勝博）が開発した「TABWD[®]（タブウッド）」は成形用の樹脂材料です。成長過程で吸収した二酸化炭素を蓄えたスギの間伐材を配合することでカーボンニュートラルに貢献します。加工しやすく、独特な風合いが特長で、繰り返し使用することが可能なため、サーキュラーエコノミーの実現にも役立ちます。

このたび、地元の森林環境保全を目指す自治体と、TABWD[®]の利用を広めたい当社の思いが一つになり、地元の間伐材を配合した TABWD[®]を超小型 BEV「COMS」の外板部品に採用。その第 1 弾として高知県高岡郡梶原町での活用が始まりました。

梶原町では山間地での宅配サービスとして利用されていた COMS を、地元の間伐材を使った TABWD[®]でリメイク。その運行開始セレモニーが 10 月 5 日に開催されました。吉田尚人町長は、「私たちのまちの森づくり活動の象徴として、この COMS が活躍するのが楽しみです」と本活動に期待を寄せました。

今後、同様の取り組みが静岡県、鹿児島県霧島市でも実施されるなど、TABWD[®]の活用が広がっています。当社は地球環境保全に貢献できる製品開発とモノづくり技術革新に取り組み、持続可能な発展に寄与してまいります。



梶原町で宅配車として利用される車両

トヨタ自動車「グランエース」のバッテリーキャリアや、株式会社オカムラ様のオフィスチェア、環境調和型ブランドのテーブルウェアなどに採用されています。

森と製品、2つの循環をつなぐ

健やかな森を育てる循環と素材を繰り返し使う循環の2つを繋ぎ、CO₂の排出削減・材料廃棄削減に貢献する材料です



TABWD®ホームページ <https://www.toyota-body.co.jp/auto/tabwd/>